

特別展「山水画と風景画のあいだ—真景図の近代」
会話で学ぼう！ 展覧会のみかた
登場人物紹介



Y 博士（Y はかせ）

美術館の学芸員。画家たちの話を聞きながら、展覧会の見どころを分かりやすくまとめる。



田能村竹田（たのむら・ちくでん 1777～1835）

江戸時代を代表する文人画家。淡い水彩や墨色で風景を感情豊かに描く。



浦上玉堂（うらかみ・ぎょくどう 1745～1820）

竹田同様、江戸時代を代表する文人画家。擦筆とリズムカルな筆致を駆使して詩情豊かな山水画を描いた。



頼山陽（らい・さんよう 1780～1832）

江戸時代を代表する詩人。竹田や玉堂など、多くの文人と交流した。



司馬江漢（しば・こうかん 1747～1818）

江戸時代の洋風画家。西洋の遠近法を用いて銅版画や油絵（泥絵）で日本の風景を描いた。



高橋由一（たかはし・ゆいち 1828～1894）

江戸生まれの洋画家。幕末から明治の日本で本格的な油絵を描いた最初の画家。



高島北海（たかしま・ほっかい 1850～1931）

明治・大正期の文人画家。長州藩・萩出身。地質学の知識を取り入れて山水画を描いた。